

# 日本共产党 山本ひかる総会通信

2017・12・23 第25号  
発行：三重県議会議員



# 道徳(ニ評価は駆染まない) 教育勅語は憲法違反

山本恵子教育長 答えが一つではない課題に向き合つて議論する上で道徳性を養うという道徳科の主旨をふまえ教科化の取り組みを進めている。評価が適切にできるよう専門家の指導を受けて実践研究している。

山本恵子は、「道徳」が教科となり心を評価することなど難しいがどの学校で「道徳」が出来年度から小学年以上に評価するのか。

廣田恵子教育長 答えが一つではないが、考へるへき道徳へと転換させることで道徳へと考へるが、考へるへき道徳へと転換させることを必要なのです。これまでの道徳では、先生方が、クラスの必要なこととを必要な時に柔軟に扱ってきたものだと認識していく。それをお仕着せのものの(国定道徳)に子どもの生きたちの生活実態から学び取る。それを「教科書通りに」「評価をせよ」ということで、評価を心配される。

「いい評価をもらつため」に本心と違う期待される発言や行動をする子どもが出てくるとされなることが心配される。

ば、それは子どもの心をゆがめます。また、評価をしなければならないといつて、多忙を極めることになつては、よい道徳教育的目的める教師が、時間的にも精神的にもストレステスを増加させる「我慢」や「目上の人が尊重」ということが記述されていました。それだけ考えればそぞに食い物にされた若者の不幸な自殺へと繋がつていつたりします。」権利を主張しましょう」「目上の人にともおかしいことはおしかしいといつても、「我慢」を言えれば、育する方がより道徳的だ。

有名企業のデータ改ざんや、金銭にまつわる汚職や不正行為、政治や経済の社会で野放しへになつていてるままでは、道徳の教科化だけで「健全な子育成」などもありようはない。子どもにに対する道徳觀の押しつけは基本的人権を尊重する「憲法」と矛盾しあります。「三重県子どもの権利条例」の主旨とも整合性が図れないと、憲法や教育基本法に反しないよ

「教育勅語」で教育しながらも、侵略戦争を支えた。先輩教師たちは疑問を持ちながらも、「教育勅語」を戦場に送ったことに、言いよいようのない罪悪感をもつて過去の過ちを苦しんだと聞く。道徳の教科書を活用するしないといふよりも、子供たちがよりよく生きる基盤となる道德性を養うため、友達と互いに理解し信頼し助け合う、法や決まりの意義を理解して進んで守り自他の権利を大切にして義務を果すことが大切だ。市町教育委員会から直後の活動について情報提供は受けたことがない。

1948年6月19日、衆議院「教育勅語等排除に関する決議」、参議院「教育勅語等の失効確認に関する決議」を全会一致で成立。

りがサボルーム 本の事務  
沖の島町郵便局西隣り  
**☎・fax 059-350-8010**  
月～金曜日 午後1時～3時  
桐山在室  
FB・HP も見てね(^\_-)☆

## 山本りか三重県議会議員 活動報告

山本りか事務所【この通信は一部政務活動費をspentしています】✉rikachan@ctv-net.net in